

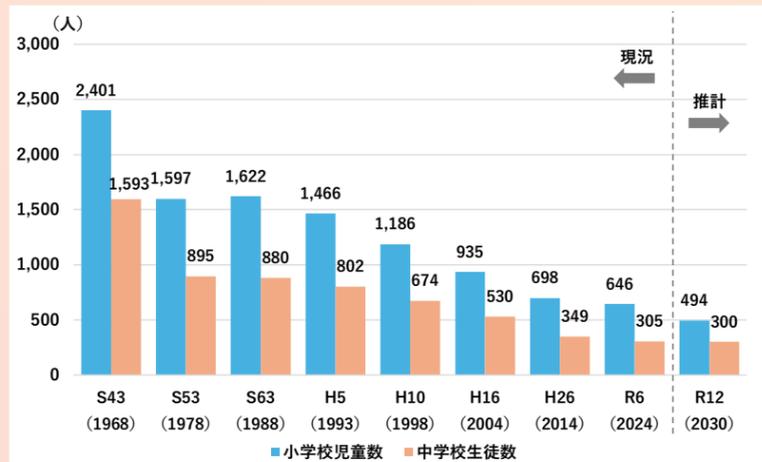


隠岐の島町立小中学校のあり方に関する 検討結果報告書【概要版】

1. 検討の目的・背景

隠岐の島町教育委員会では、平成28年8月に平成28年度から令和7年度までの10年間を計画期間とした「隠岐の島町立小中学校規模適正化基本計画（統廃合しない魅力ある学校づくり）」を策定しました。この計画の中で「児童生徒数の実数が分かる5年後を目途に必要なであれば、規模適正化基本計画の見直しを実情に合わせ検討する必要があります。」とされており、計画策定から5年間が経過した令和3年8月に、隠岐の島町立小中学校規模適正化検討委員会が設置されました。同委員会は隠岐の島町教育委員会教育長より諮問を受け、当時の教育環境や社会情勢の変化を踏まえた現計画の検証及び見直しについて審議され、答申がされました。

そして、次期計画を策定するにあたり、令和6年6月20日「隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会」（以下、検討委員会）が設置されました。教育長から、少子化により児童・生徒数が減少している現状（下図参照）を踏まえ、小中学校の適正な規模及び配置について調査検討し、児童生徒にとって望ましい学校教育環境の方針を提案するよう依頼されました。教育委員会から委嘱された9名の検討委員により検討が進められ、令和7年3月に下記「検討結果」のとおり教育長に報告されました。



児童数・生徒数の推移と将来推計

2. 検討結果

① 「めざす子ども像」

検討委員会では、上記のような状況を踏まえて今後の小中学校のあり方を検討する上で、本町の児童生徒に対する教育への願いとして、「めざす子ども像」を5点設定しました。

これらの内容は、これからの社会におけるグローバル化の急速な進展や変化の激しい不確実性の時代を生きていく児童生徒にとって必要な資質であり、本町の児童生徒が、友だちとともに互いに尊敬し合い、学び合い、切磋琢磨しながら立派な社会人となることを願ったものです。

1. 自ら学び、学力を身につける子
2. 未来をたくましく生きていく子
3. 自分も友だちも大切にする子
4. 夢に向かって努力する子
5. 自分の考えを自分の言葉で表現する子



②豊かな学びを支える「学校の規模と配置」

「めざす子ども像」を育てるための適正規模として、小学校では一学級あたりの児童数は20人以上、中学校では一学級あたりの生徒数は25人以上が望ましい人数と設定しました。

小学校においては、集団の中で、命の大切さを学び、人間としての感性を育み、基礎学力、社会性などを身につけさせていくことが大切であり、そのためには、一学級あたり20人以上の児童数が望ましいと考えました。

中学校においては、「様々な願いを叶えることができる学校」、「やりたいことが挑戦できる学校」、「友だちの多様性に触れ認め合える学校」、などを望ましい中学校の教育環境として考え、一学級の生徒数を25人以上と設定しました。

上記の適正規模の学級集団を確保するためには、本町の今後の少子高齢化の状況を考慮した場合、学校を統廃合することも考えられます。検討委員会では、小学校・中学校共、**学校の数を2校に集約すべき**という設定を行いました。

小学校および中学校の適正な規模・配置

	小学校	中学校
適正な規模	1学級あたりの人数は 20人以上 が望ましい	1学級あたりの人数は 25人以上 が望ましい
学校の数	2校 現在：西郷小学校、中条小学校、有木小学校、磯小学校、北小学校、五箇小学校、都万小学校 将来：西郷小学校、新設小学校（西郷小学校以外の6校を統合）	2校 現在：西郷中学校、西郷南中学校、五箇中学校、都万中学校 将来：西郷中学校、新設中学校（西郷中学校以外の3校を統合）
統廃合の時期	令和13年度を目途に実現する	令和11年度までに実現する
学校の位置	西郷小学校：現在の学校を活用 新設小学校：島の中心部に新設	西郷中学校：現在の学校を活用 新設中学校：西郷南中学校の既存校舎を活用

上記「適正な規模と配置」に関しては、検討委員会がまとめ、教育委員会に報告した内容です。今後、町民の皆様の意見や継続した議論により、町としての方針を決定していきます。

